

# スクリーンキット 取扱説明書

製品番号 09-11-0362

適応車種	スーパーカブ 110 (JA44-1000001 ~)
	スーパーカブ 50 (AA09-1000001 ~)

この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。  
使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。  
万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合があります。予めご了承下さい。

## ☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

- ◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。
- ◎当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。
- ◎当製品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。
- ◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。
- ◎激しい悪路走行等による損傷は保証いたしかねます。予めご了承下さい。
- ◎不明な点がございましたらお買い求め販売店にお問い合わせ下さい。
- ◎製品には、エッジや突起がある場合があります。必ず作業手袋を着用し作業を行って下さい。  
(説明書内で作業手袋未着用の写真がある場合でも、作業時は作業手袋等を着用して下さい。)
- ◎この取扱説明書は、基本的な技術や知識を持った方を対象に作成しております。  
取り付けに経験の無い方や、取り付けに必要な工具等をお持ちで無い場合、取り付け作業は行わずに、指定工場、又は認証工場等の車両整備が可能な業者へ取り付けをご依頼下さい。
- ◎スクリーンが汚れた場合は、大量の水をかけながら、柔らかい布かスポンジで拭いて下さい。スクリーンは傷つきやすいので、ブラシなどを用いての洗浄は避けて下さい。(スクリーンに傷がつく原因となります。)
- ◎車体カバーを被せた状態で駐車する場合は、日光の当たらない風通しの良い場所に止めて下さい。  
(カバー内に熱がこもり、スクリーンが変形する恐れがあります。)
- ◎車体カバーをご使用になる場合は、スクリーンに無理のかからないサイズの物をご使用下さい。  
(スクリーンやステー類が変形、もしくは破損する恐れがあります。)

## ～特徴～

- 首から下の上半身をカバーする中型サイズのスクリーンをスーパーカブ 110/50 に設定。曲面を多用したシンプルな形状のスクリーンはスーパーカブ 110/50 に良く似合います。
- スクリーンサイズ：H430mm x W440mm x t3.7mm。

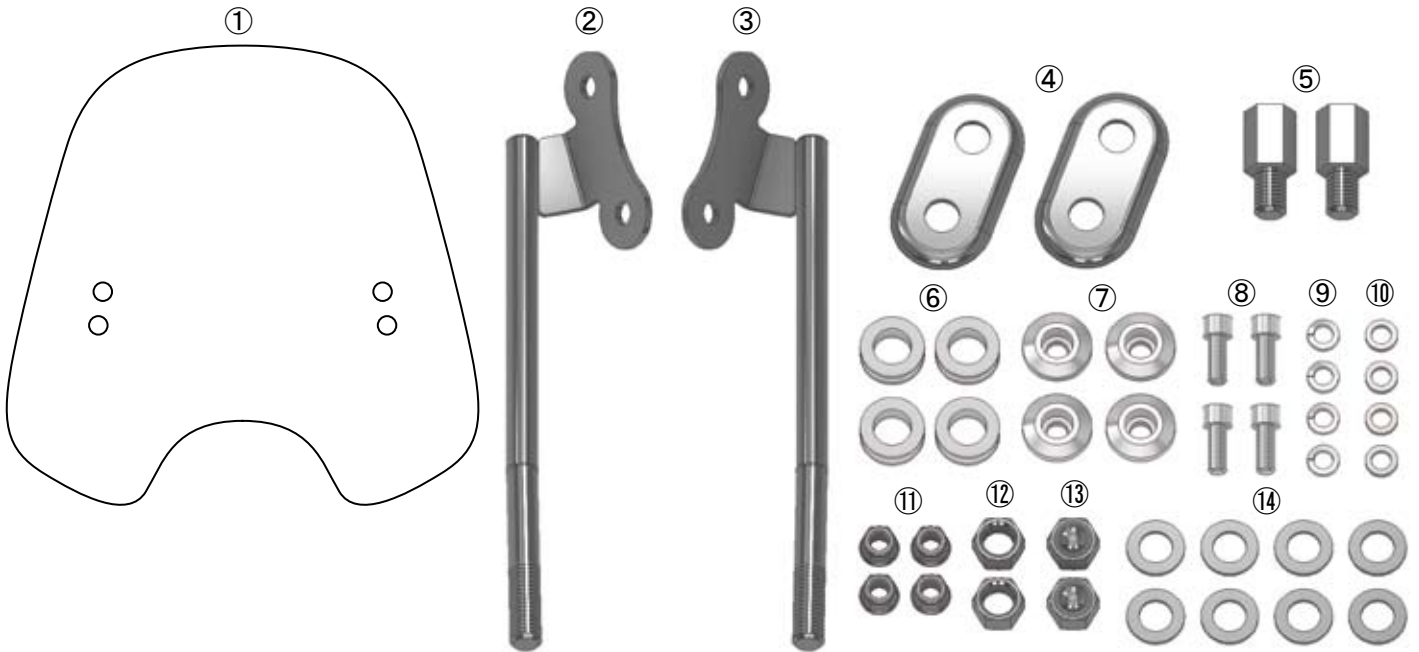
**注意** この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

- 作業等を行う際は、必ず冷間時（エンジン及びマフラーが冷えている時）に行ってください。(火傷の原因となります。)
- 作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。(部品の破損、ケガの原因となります。)
- 規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。(ボルト及びナットの破損、脱落の原因となります。)
- 製品及びフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、作業手袋等を着用し手を保護して作業を行ってください。  
(ケガの原因となります。)
- 走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いかを確認し緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。  
(部品の脱落の原因となります。)
- スクリーンの汚れがひどい場合は、中性洗剤を使用し洗浄して下さい。酸性またはアルカリ性洗剤、有機溶剤を使用してお手入れは避けて下さい。  
また、バッテリー液やブレーキフルード、冷却水やエンジンオイルなどがスクリーンに付着しないようにして下さい。  
(スクリーン変質や破損の原因となります。)
- スクリーンに直射日光が当たらないように駐車して下さい。(スクリーンの反射で日光が収斂し、車両や周りにある物を傷める恐れがあります。)

**警告** この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。(事故につながる恐れがあります。)
- 作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。(作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。)
- 点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。  
(不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)
- 点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。(事故につながる恐れがあります。)
- 製品梱包のビニール袋は、幼児の手の届かない所に保管するか、廃棄処分して下さい。(幼児がかぶったりすると、窒息の恐れがあります。)
- 走行前には、スクリーン及びスクリーユ類が確実に固定されているか確認して下さい。  
(取り付けが不確実な場合、走行中にスクリーンが脱落し、乗員または後続車の乗員や歩行者を死亡、または重大な障害を与える原因となります。)
- スクリーンの装着により、空力特性が変化する可能性があります。取り付けした最初や、風の強い日は、車両の挙動変化の様子を確認しながら走行して下さい。(予期せぬ挙動変化により、事故につながる恐れがあります。)

- ◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品及び価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
- ◎クレームについては、材料及び加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後 1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。  
但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。  
なお、レース等でご使用の場合はいかなる場合もクレームは一切お受け致しません。予めご了承下さい。
- ◎この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいますようお願い致します。



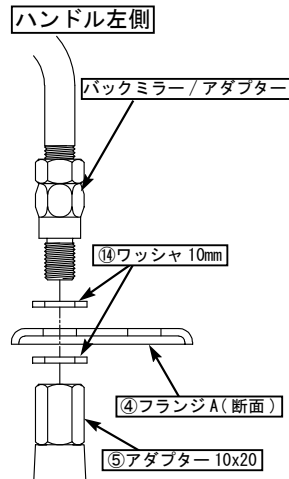
番号	部品名	個数
1	スクリーン	1
2	L. ブラケット ASSY.	1
3	R. ブラケット ASSY.	1
4	フランジ A	2
5	アダプター 10x20	2
6	ラバー	4
7	リテーナー	4
8	ソケットキャップスクリュー 6x15	4
9	スプリングワッシャー 6mm	4
10	スチールスペーサー 6.3x10x2	4
11	フランジ U ナット 6mm	4
12	六角ナット M10	2
13	袋ナット M10	2
14	ワッシャー 10mm	8

■取り付け要領 ※特に記載の無い細部の取り付け方法や規定トルクにつきましては、純正サービスマニュアルを参照して下さい。

- 水平な場所でセンタースタンドを使用し、車両をしっかりと安定させます。
- 左右のバックミラー / アダプターと共に取り外します。
- ハンドル左右のバックミラー穴に⑤アダプター 10x20 を取り付け、

- ハンドル左右の⑤アダプター 10x20 に⑭ワッシャー 10mm、④フランジ A、⑭ワッシャー 10mm の順にバックミラー / アダプターを使用し、仮取り付けします。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。  
アダプター  
トルク：39N・m (3.9kgf・m)



■取り付け要領 ※特に記載の無い細部の取り付け方法や規定トルクにつきましては、純正サービスマニュアルを参照して下さい。

○フランジの角度を画像の様におおまかに合わせ、バックミラーの角度もある程度合わせておきます。

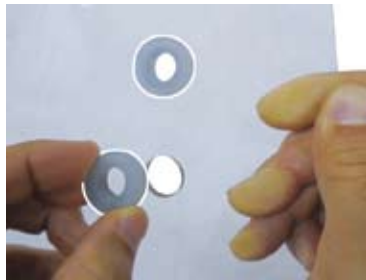
ハンドル左側



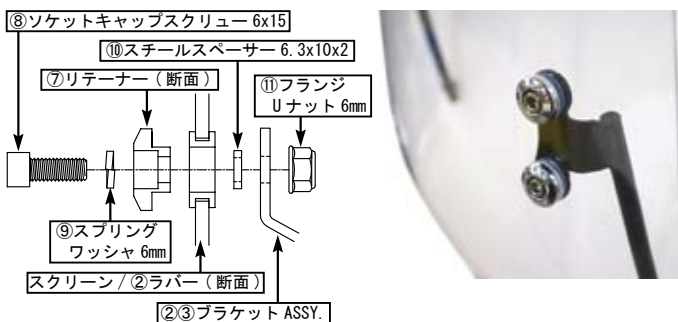
ハンドル右側



○①スクリーンに⑧ラバー 4個を取り付けます。



○⑦リテーナー 4個をセットし、⑧ソケットキャップスクリュー 6x15、⑨スプリングワッシャ 6mm、⑩スチールスペーサー 6.3x10x2、⑪フランジ Uナット 6mm を使用し、②L. ブラケット ASSY. をスクリーン左側に、③R. ブラケット ASSY. をスクリーン右側に仮取り付けします。



○左右のブラケット ASSY. のネジ部に⑫六角ナット M10 と⑭ワッシャ 10mm を各 1 個ずつ取り付けます。



○左右のフランジの穴にブラケット ASSY. を差し込みます。



○左右のブラケット ASSY. のネジ部に⑭ワッシャ 10mm と⑬袋ナット M10 を各 1 個ずつ仮取り付けします。



○カウルとの隙間を確認しながらスクリーンの位置を定め、各仮取り付け部を締め付けます。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。  
ソケットキャップスクリュー 6x15  
トルク：12N・m (1.2kgf・m)  
バックミラーアダプター  
トルク：20N・m (2.0kgf・m)  
六角ナット M10  
トルク：27N・m (2.8kgf・m)

○左右のバックミラーの位置を定めてバックミラーのナットを締め付けて固定し、ブーツを被せます。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。  
バックミラーのナット  
トルク：20N・m (2.0kgf・m)



○取り付けが終わりでしたら、安全が確保出来る場所などで低速で走行し各部に緩みや振動といった異常が無いか確認してから走行を開始して下さい。

▲警告：エンジンを始動させての点検は、必ず換気の良い場所で行って下さい。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。(一酸化炭素中毒になる恐れがあります。)

